

遠江総合高校OBの航空自衛官が後輩に自衛隊を紹介



自衛隊静岡地方協力本部（本部長・宮川知己一等空佐）は、6月12日（水）、静岡県立遠江総合高等学校（周智郡森町）で行われた進路ガイダンスに参加した。静岡地本袋井地域事務所からは、広報官の山下亮三等海曹、部隊からは、平成27年度同校卒業生で、現在航空自衛隊浜松基地（浜松市）第1航空団で勤務している宮崎篤空士長が参加。1年生に約50分間、自衛隊の魅力をPRした。

生徒たちは、宮崎士長が同校OBであることを知ると一気に親近感が湧いた様子で、生徒の一人から「航空自衛隊、特に飛行機に興味があり、プラモデルが趣味」と聞くと、宮崎士長は「教材整備隊」という部隊では教育教材として航空機のプラモデルを作成する仕事があることを紹介した。また、「陸上自衛隊に入っただけ、一握りのエリートしか持っていないレンジャー特技を取りたい」と話す生徒には、陸上自衛隊には普通科をはじめさまざまな職種があり、レンジャーは全ての職種から志願できることなどを紹介。生徒たちは、初めて知ったレンジャー以外の職種にも興味を持った様子であった。

また、入隊後の訓練内容や休日の様子など一番気になる質問に対しても、宮崎士長は自らの体験談を交えて詳しく丁寧に説明し、生徒たちは「説明を聞いて自衛官になりたい気持ちが高まりました」「ヘリコプターの体験搭乗にもぜひ参加したいです」と目を輝かせながら感想を話していた。

静岡地本は、今後も地元の学校の卒業生である隊員などと連携し、積極的に学校で開催される進路ガイダンス等に参加して、若者が描く未来の夢や可能性の拡大結実に貢献していく。

募集事務所所在地域周辺で清掃活動

静岡地本が県内各地で実施



自衛隊静岡地方協力本部（本部長・宮川知己一等空佐）は、6月19日（水）、「環境月間」の取り組みの一つとして、本部庁舎周辺や県内10カ所の募集事務所周辺で環境美化活動（ごみ拾い）を実施した。

静岡市にある本部庁舎周辺では、本部で勤務する隊員約30人が参加。集まった隊員に宮川本部長は「静岡地本は、この度の環境保全の普及・啓発をはじめ、地域に根ざした活動を続けて地元へ貢献できる組織であってほしい」と訓示。隊員たちは、1時間ほどかけて周辺道路脇に捨てられたペットボトルや側溝の水の流れを遮っている木の葉など、ごみ袋10袋分のごみを拾った。

活動中に、近所の住民から「ありがとう。ご苦労さま」と声をかけられる一幕も。参加隊員は「普段の通勤で使用する道路なので、これからもきれいにしていきたい」「今回の活動を通して更に地元の人々と交流できたとと思う。これからもこのような活動に積極的に取り組んでいきたい」と話していた。

静岡地本は、これからも地域に密着した施策を推進し、地域から信頼される組織として努力していく。